

検修合理化粉碎・3.25総決起を確認

(1/27~28) 検査検修分科 第2回委員会 開催される

日刊
動労千葉

84.2.3

No. 1555

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二七二〇七

検査検修分科第二回委員会が、一月二七、二八日に千葉職員集会所で開催されました。検・修分科のさらなる団結と、国鉄―三里塚を基軸に、国鉄労働運動破壊Ⅱ検修合理化攻撃を断固粉碎し、分科会諸要求獲得に向けて闘う方針を確認、当面、3・25三里塚現地闘争に総決起することを確認しました。又、特退により空席となった副会長の補充に、加瀬武正氏（新小岩・検査係）を選出し、あわせて執行委員の補充と会計監査の選出をおこなって、成功裡に終了しました。

闘う団結強化を

〓 斉藤会長あいさつ 〓

冒頭、あいさつに立った斉藤会長は、「これまで検・修分科は、下廻り合理化、及び、59・2ダイ改等、国鉄当局の合理化攻撃を粉碎するため闘ってきました。本委員会において、それを正しく総括して、動労千葉の中の乗務員分科につぐ検・修分科のさらなる団結をかちとろう」と決意をのべました。

来賓として、参加した中野委員長が本部を代表してあいさつにたち、最近の新聞報道等による二つの考えさせられたこと、として三池坑の火災、新日鉄の操短による二千五百名の首切りにふれ労働組合の弱体化による安全保安の無視・資本の非道な合理化の結果であることを指摘、国鉄労働運動内での「本部」革マルの裏切りによる「働こう運動」が遠からず重大事故を生む基盤をつくっていることを弾劾しました。また、今回の動乗勤改悪攻撃が突破口となつてすべての職場に対する勤務制度の改悪Ⅱ労働強化Ⅰ労働災害となつてあらわれてくるとして、中曽根内閣打倒の視点をもつて闘わなくてはならないと、分科の奮起を呼びかけました。

検修合理化阻止で活発な討論

つづいて質疑討論にうつり、各委員より活発な意見が出されました。主な質疑討論事項は次のとおりです。

- ① 「職制改正後の構内分科との関係および中卒者の検査係受験資格」について、
- ② 「構内運転分科が現存しているし、現行通りの扱いで進める。なお、将来的には組織検討委員会で検討する。中卒者がいれば現実的に対応する。」
- ③ 「添乗用制服および作業服の改善」について、
- ④ 「京葉線暫定開業に係る、さぎ沼電車基地の展望」について、
- ⑤ 乗務員の要員として四〇名で暫定開業すると伝えられている。検修としては津田沼電車区で



受け持つとの話しがある。仕業検査が若干発生する。

- ④ 「機関車職場の将来展望」について、59・2交渉の中で準トップ交渉により「機関車関係基地を将来にわたって存続に努力する」と確約させた点のつとり、今後も闘いを強めていく。
- ⑤ 「昇給協定の改悪による8適用と責任事故との関係」について、
- ⑥ 出先での車両故障は、乗務員や検査係の責任ではないし、列車が遅れたという理由で8を適用するなどという不当な攻撃は許さない。事故の一切の責任は当局にあるという基本原則に立ちきり、労働者への一切の処分は許さないという職場での力関係を保持していきう。
- ⑦ 「木更津機関支区の将来展望」について、
- ⑧ 将来的には、電車の仕事を受け持つようにしていくことを考えている。当面の問題として電車の転換教育をかちとっていく方向で考えている。

委員会は、以上の提起、討論をへて、役員候補等をおこなったのち、全員が強固な意志統一をかちとり、斉藤会長の音頭で団結ガンパローを三唱して成功裡に終了しました。